



2024年3月期 決算補足説明資料

2024年5月10日
大石産業株式会社
(東証スタンダード、福証：3943)

1. 会社概要 p2~
2. 2024年3月期 決算概要 p8~
3. 中期経営計画 最終業績目標の修正
(2025年3月期 業績予想) p19~
4. 株主還元 p23~
5. 参考資料 p25~

1. 会社概要

社名	大石産業株式会社
設立	1947年2月（創業：1925年4月）
所在地	福岡県北九州市八幡東区桃園2-7-1
資本金	466,400,000円
決算期	3月
従業員数	579名（連結）（2024年3月末時点）
株主数	3,472名（2024年3月末時点）
事業内容	産業用包装資材の製造販売（パルプモールド、段ボール、フィルム、重包装袋）等
連結子会社	CORE PAX(M) SDN.BHD.（大型クラフト紙袋の製造販売） ENCORE LAMI SDN. BHD.（ラミネート製品の製造販売） 柳沢製袋株式会社（大型クラフト紙袋の製造販売） 株式会社アクシス（各種情報機器販売、映像・デザイン等の各種情報コンテンツの制作業等）

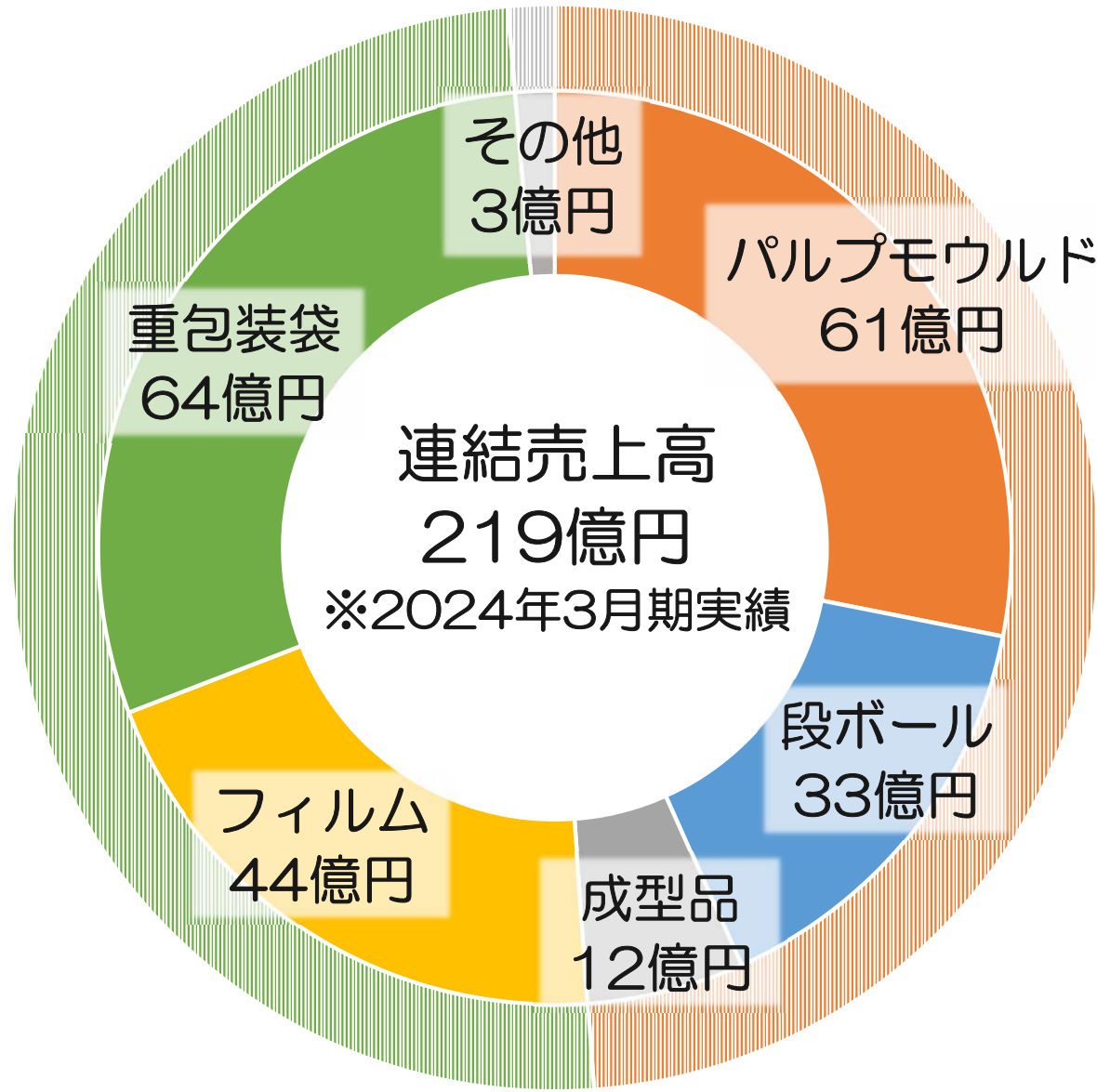


代表取締役社長 山口 博章

「つつむ大石産業」 包装資材の総合メーカー

包装機能材事業

50%



緩衝機能材事業

49%

緩衝機能材事業

- パルプモールド
鶏卵トレー等 (畜産用)
青果物トレーおよびポット (農業用)
輸送用緩衝材 (工業用)
- 段ボール
段ボールケース (農畜産用、食品用、工業用)
段ボールシート (製函用)
- 成型品
食品トレー、ゆりかご (食品用)



包装機能材事業

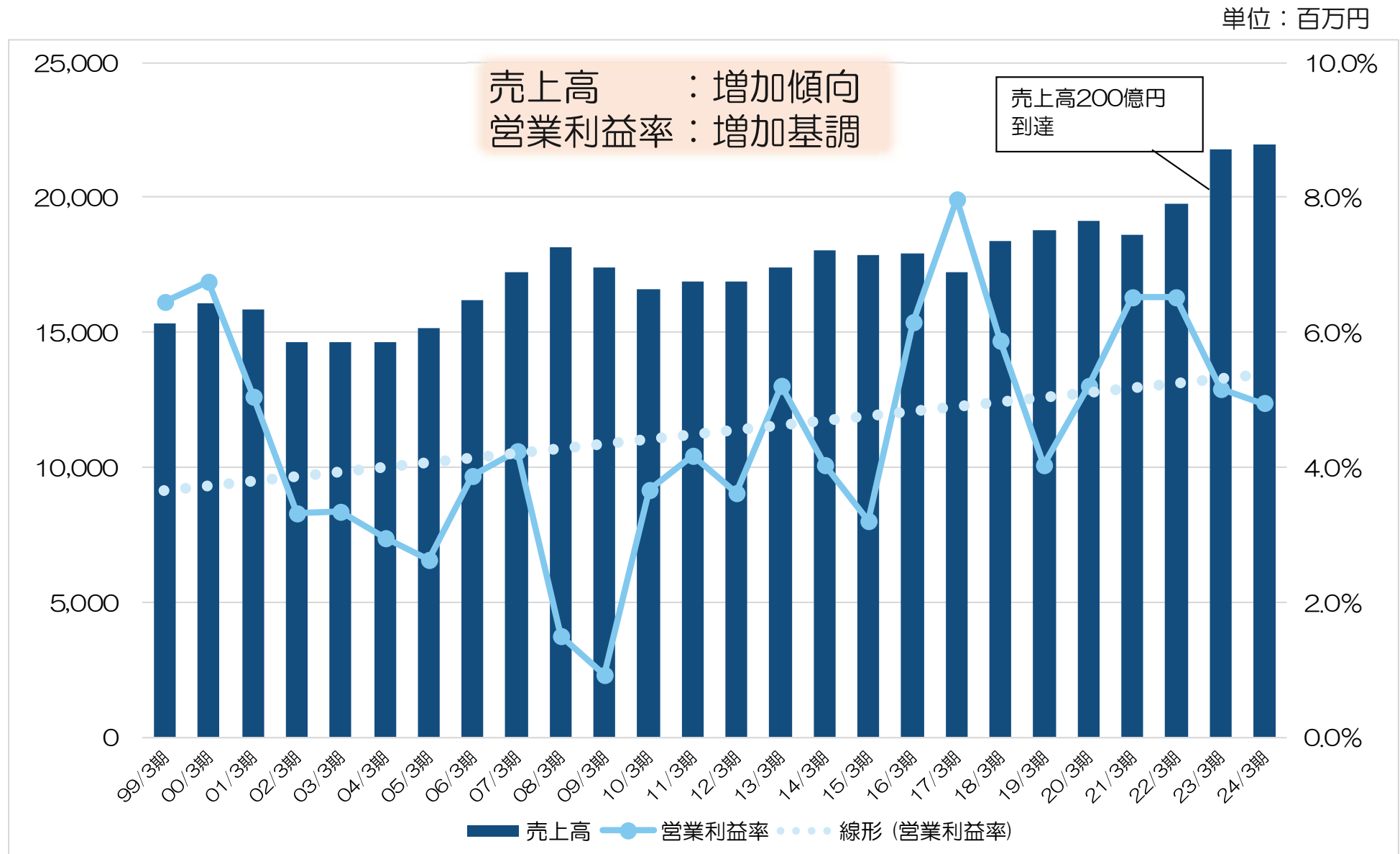
- フィルム
ポリスチレンフィルム (食品用、工業用)
キャスト製法プラスチックフィルム (食品用、工業用)
- 樹脂袋
重包装ポリエチレン袋 (肥料用、合成樹脂用、化学薬品用)
- 紙袋
大型クラフト紙袋 (合成樹脂用、化学薬品用、製粉用、飼料用)
ラミネート製品 (大型クラフト紙袋用) 他



- 1925年 大石商店創業 藁工品・麻袋製品の販売
- 1947年 株式会社大石商店設立 スコップ等の製造・販売を開始
- 1949年 重包装袋の製造・販売を開始
- 1953年 段ボールの製造・販売を開始
- 1963年 パルプモウルトの製造・販売を開始
- 1967年 フィルムの製造・販売を開始
- 1976年 樹脂袋の製造・販売を開始
- 1980年 福岡証券取引所に株式上場
- 1986年 北九州市に株式会社アクシス設立
- 1990年 マレーシアにCORE PAX(M)SDN.BHD.設立…業界初の海外進出となる
- 1994年 シンガポールにシンガポール営業所開設
- 1999年～包装資材分野に注力
- 2013年 マレーシアにENCORE LAMI SDN.BHD.設立
- 2019年 柳沢製袋株式会社を子会社化
- 2022年 東京証券取引所 市場第二部に株式上場 ※現スタンダード市場
- 2025年 創業100周年へ



□2023年3月期には売上高200億円に到達。1947年の設立以来、赤字はなし。



2. 2024年3月期 決算概要

前年比<増収減益>

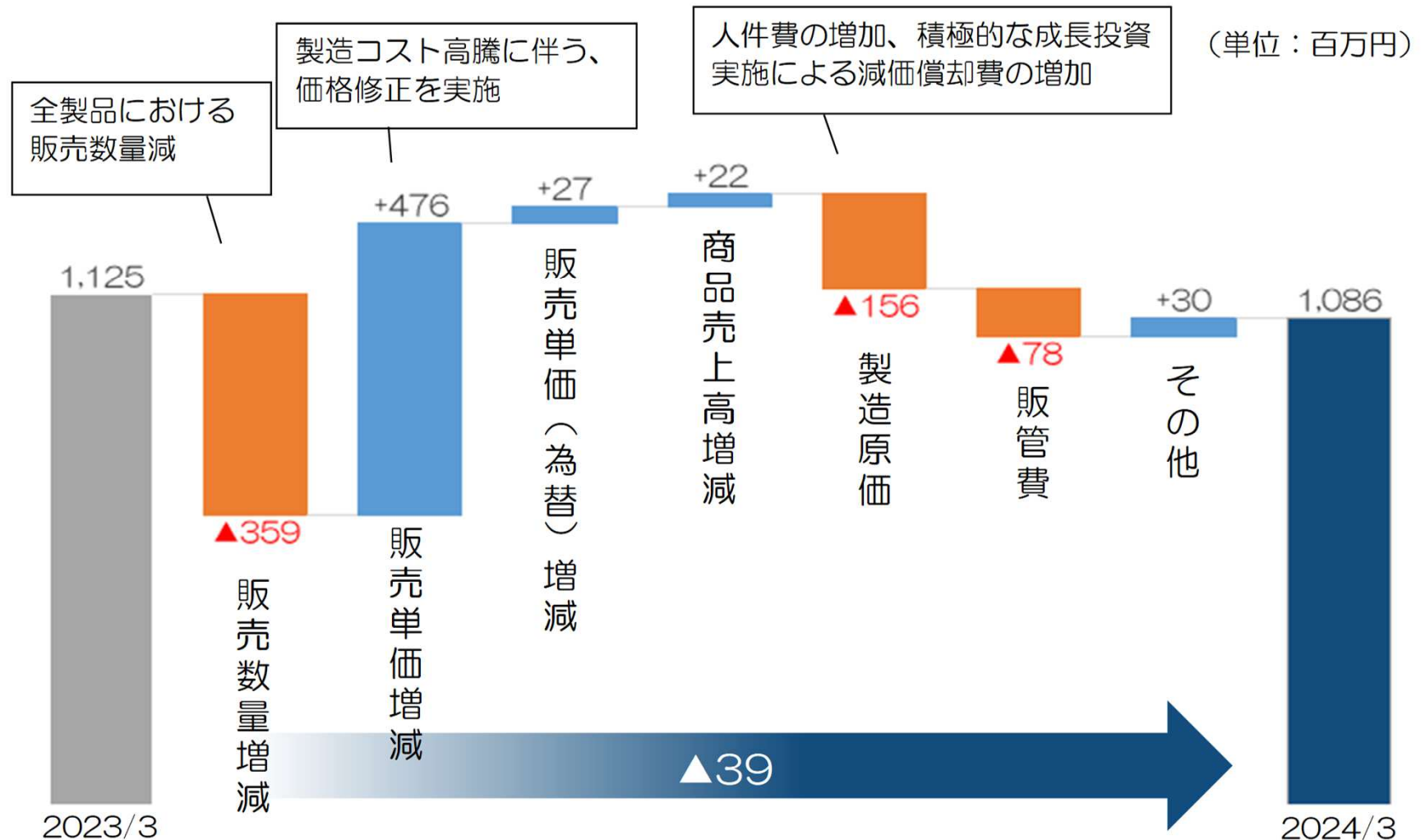
- 昨年11月2日に業績予想を下方修正したものの、予想を下回る結果となった
- 売上高は、各主要製品で数量減はあったものの、原燃料価格の高騰に対処するための販売価格の修正の効果に加え、パルプモウルド製食品容器、事務機器用パルプモウルドトレーの拡販等により、増収
- 利益は、販売価格修正の効果はあったものの、各製品の販売数量の減少と製造固定費の増加等により、減益
- 昨年3月に発生した八戸工場火災に伴う受取損害保険金251百万円、役員退職慰労金返還額57百万円を計上したことにより、特別利益が発生

(単位：百万円)

	2023/3 実績	2024/3 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	21,788	21,964	+176	0.8
営業利益	1,125	1,086	▲39	▲3.5
経常利益	1,398	1,347	▲50	▲3.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	902	1,065	+162	18.0

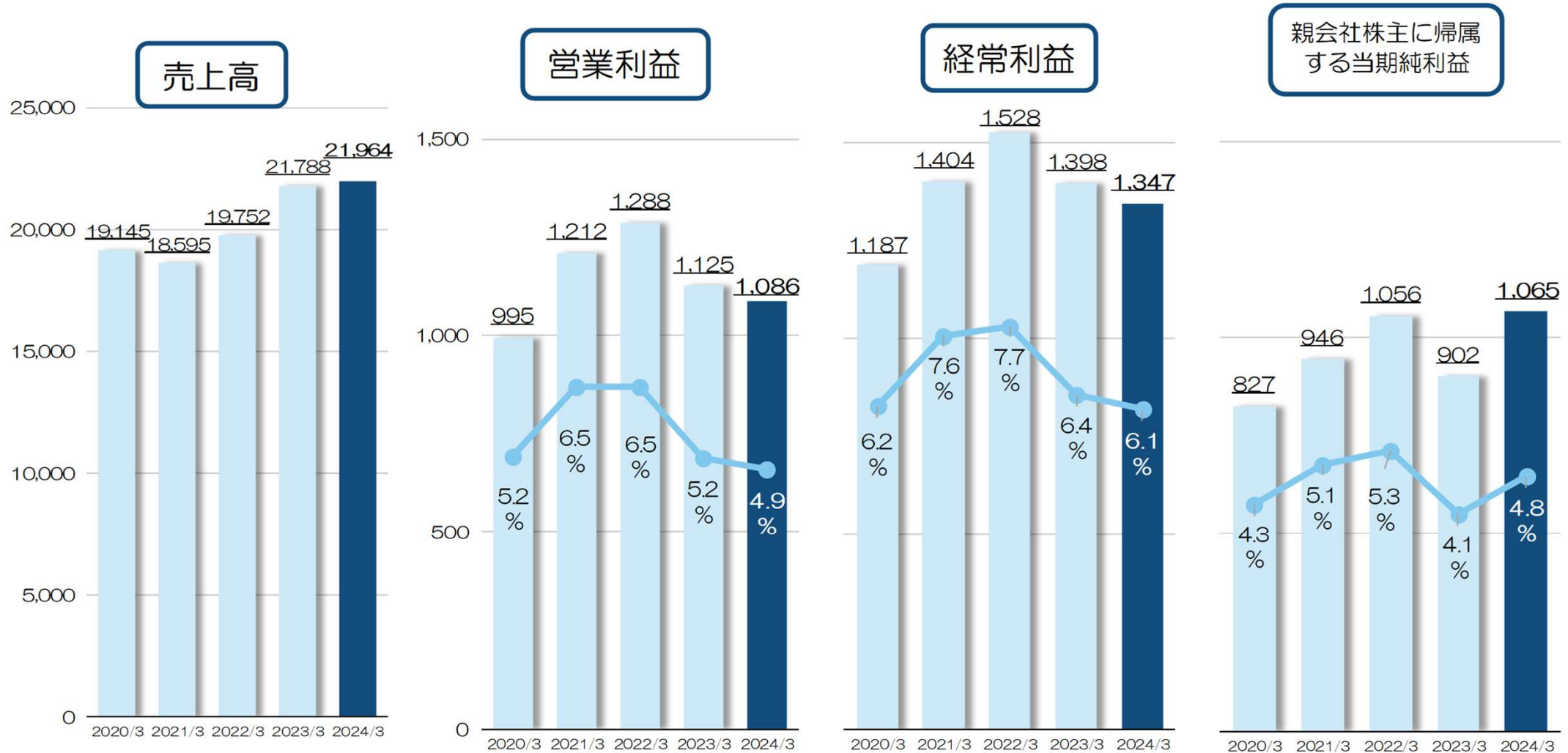
営業利益の変動要因分析

- 原燃料価格の高騰に対処するために販売価格の修正を行ったが、各主要製品の販売数量が減少したこと及び、人件費や減価償却費の増加等により、減益
- イノベーション活動のスピードアップ、新規・拡販活動の推進、製造コストの削減等により、収益改善に努める



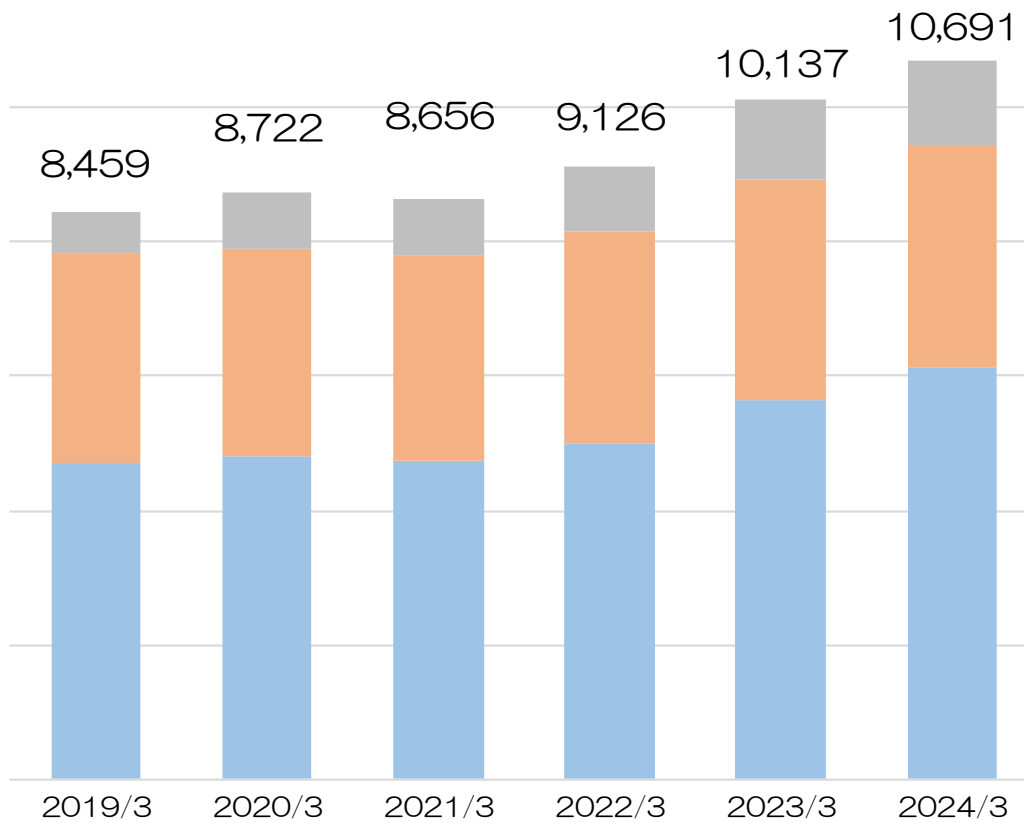
□売上高は、包装資材分野に注力して以来、過去最高

(単位：百万円)



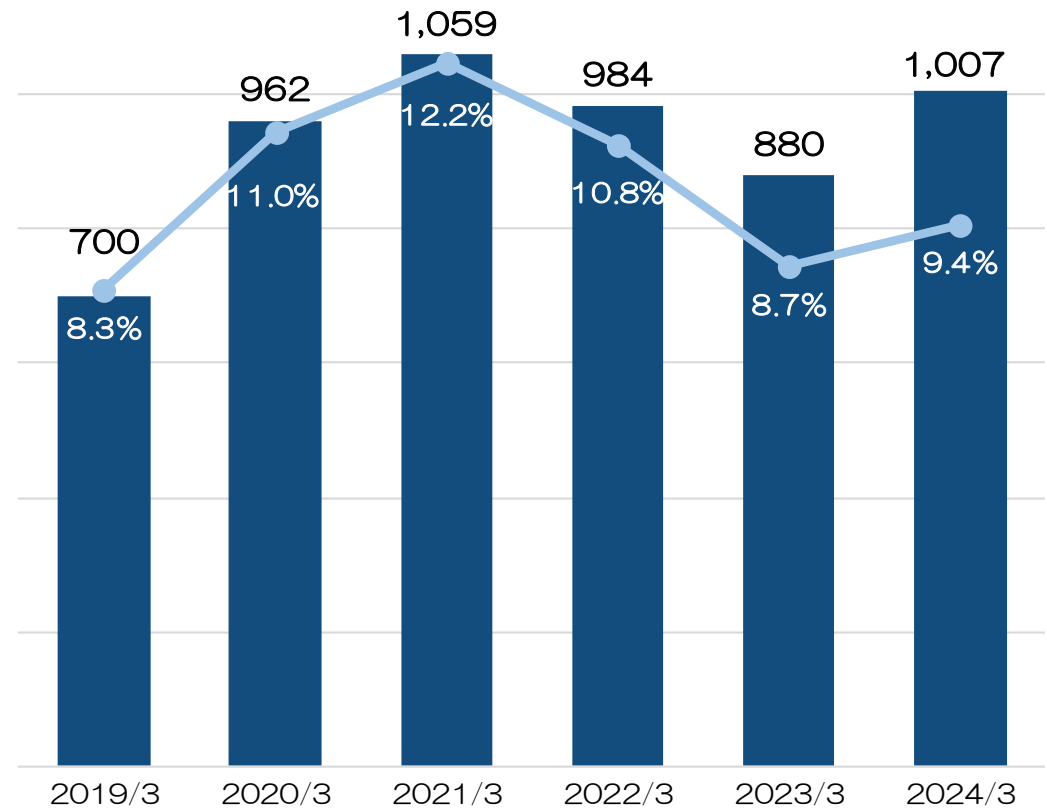
- 売上高は、各製品での販売価格の修正、パルプモールド部門での食品容器や事務機器用トレーの拡販、成型部門での拡販の効果等により、増収
- セグメント利益は、人件費や減価償却費等のコスト増加の影響はあったものの、価格修正の効果や生産性向上の効果により、増益

売上高推移 (単位：百万円)



■パルプモールド ■段ボール ■成型

セグメント利益推移 (単位：百万円)



■セグメント利益 ●利益率

□パルプモールド

主な用途：鶏卵、青果物、工業品等

2023年度に販売を開始した食品容器、前期立ち上げた事務機器用トレーが売上増に貢献。

□段ボール

主な用途：鶏卵、青果物、工業品等

段ボール業界全体の状況と同様、物価高による買い控えの影響を受け、数量減。

□成型

主な用途：生鮮食品、青果物（主にいちご等軟弱果実）

（単位：百万円）

拡販活動の効果により、

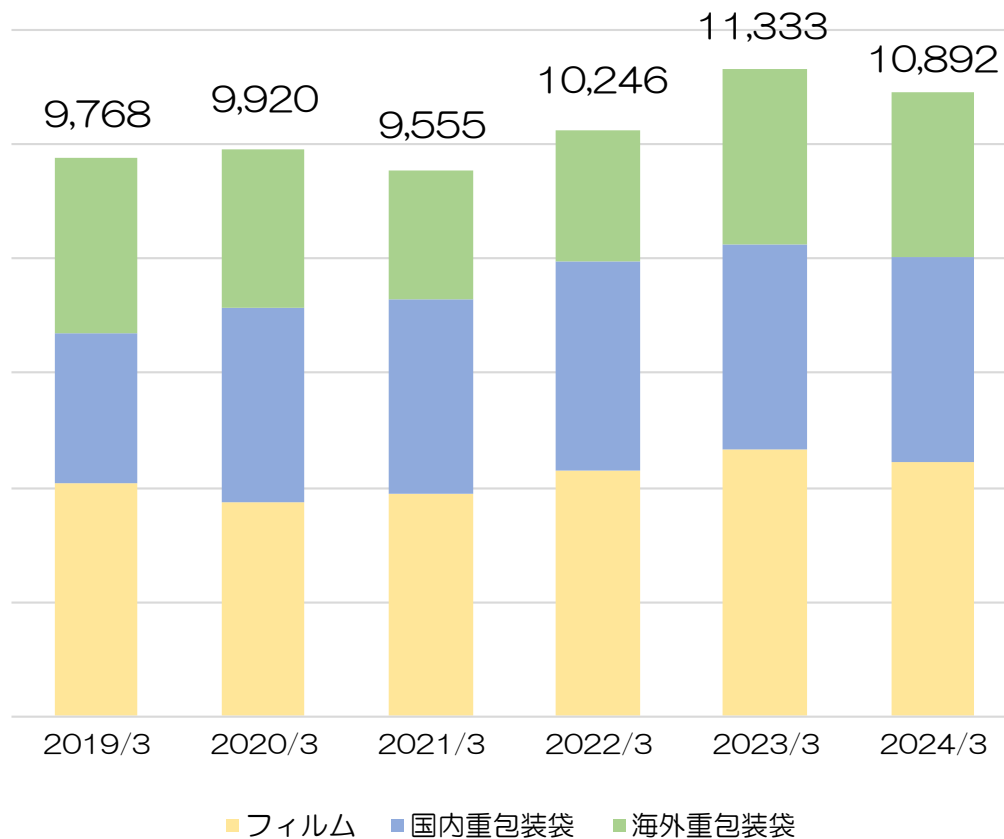
販売数量は増加傾向。

	2023/3	2024/3	増減額	増減率 (%)
緩衝機能材事業	10,137	10,691	+553	5.5
パルプモールド	5,655	6,114	+458	8.1
段ボール	3,284	3,335	+51	1.6
成型	1,197	1,241	+43	3.7

- 売上高は、各製品での販売価格修正の効果はあったものの、フィルム部門での食品容器用ポリスチレンフィルムの販売数量の減少、また、海外紙袋部門での食品、飼料及び化学薬品向けの需要減による販売数量減少の影響が大きく、減収
- セグメント利益は、販売数量の減少、また、製造コスト増加により、減益

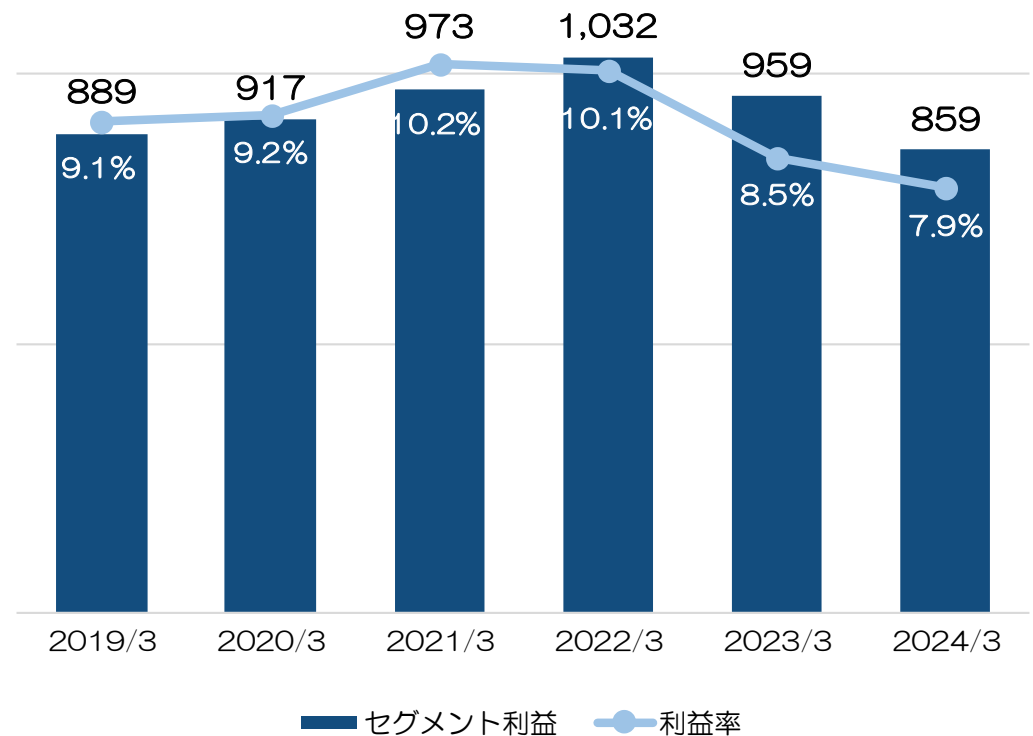
売上高推移

(単位：百万円)



セグメント利益推移

(単位：百万円)



□フィルム

主な用途：食品、電子材料、衛生材料等

食品容器用ポリスチレンフィルムの販売数量減により、減収

□国内重包装袋

主な用途：食品、化学薬品・合成樹脂、飼料等

販売価格の修正により、増収

□海外重包装袋

主な用途：食品、化学薬品・合成樹脂、飼料等

中国経済の停滞、競争の激化により、販売数量が減少し減収

(単位：百万円)

	2023/3	2024/3	増減額	増減率 (%)
包装機能材事業	11,333	10,892	▲440	▲3.9
フィルム	4,659	4,431	▲227	▲4.9
国内重包装袋	3,581	3,592	+10	0.3
海外重包装袋	3,092	2,868	▲223	▲7.2

連結貸借対照表

OSK

(単位：百万円)

	2023/3/31	2024/3/31	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	15,536	15,406	▲129	▲0.8	原材料及び貯蔵品、現金及び預金の減少等
固定資産	10,008	10,666	+657	6.6	機械装置及び運搬具、投資有価証券の増加等
資産合計	25,544	26,072	+528	2.1	
流動負債	7,223	6,575	▲647	▲9.0	短期借入金、電子記録債務の減少等
固定負債	1,771	1,756	▲14	▲0.8	リース債務、長期借入金の減少等
負債合計	8,994	8,332	▲662	▲7.4	
純資産合計	16,549	17,740	+1,190	7.2	
負債純資産合計	25,544	26,072	+528	2.1	
自己資本比率	64.6%	67.8%	+3.2%	—	

(単位：百万円)

	2023/3	2024/3	増減額	主な増減要因
営業活動CF	1,240	1,864	+623	増益及び保険金収入、棚卸資産の減少等
投資活動CF	▲1,117	▲1,355	▲238	有形固定資産の取得による支出の増加等
財務活動CF	▲333	▲642	▲309	短期借入金の減少等
現金及び現金同等物の期末残高	7,418	7,289	▲128	

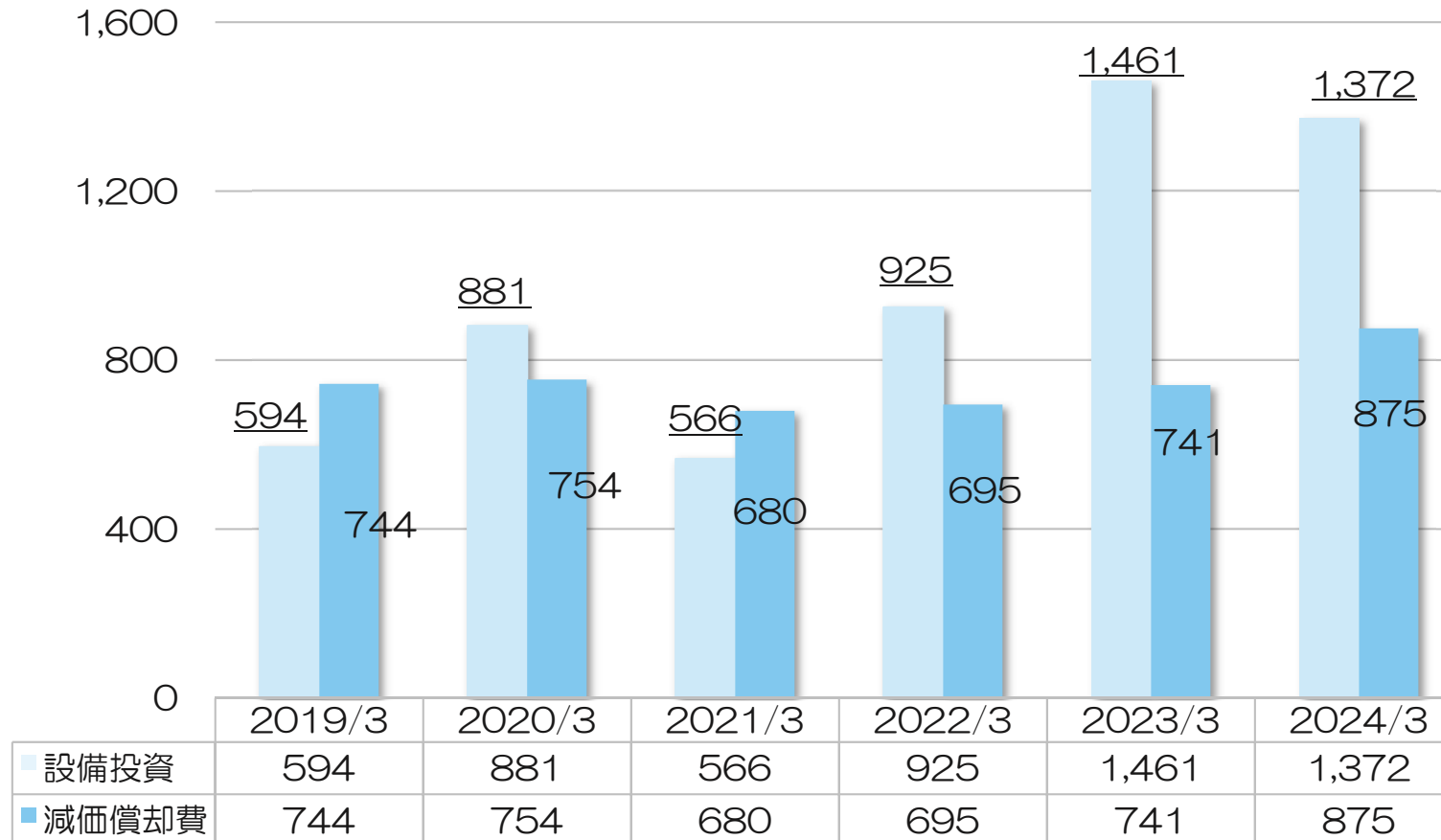
設備投資額・減価償却費

□中期経営計画に則り、設備投資を実行

＜主な設備投資＞

- ・ 段ボール事業部製造部 直方工場 / 機械装置 482百万円
- ・ パルプモールド事業部製造部 八戸工場 / 機械装置 366百万円
- ・ 管理部 / 備品 132百万円

(単位：百万円)



3. 中期経営計画 最終業績目標の修正 (2025年3月期 業績予想)

修正のポイント

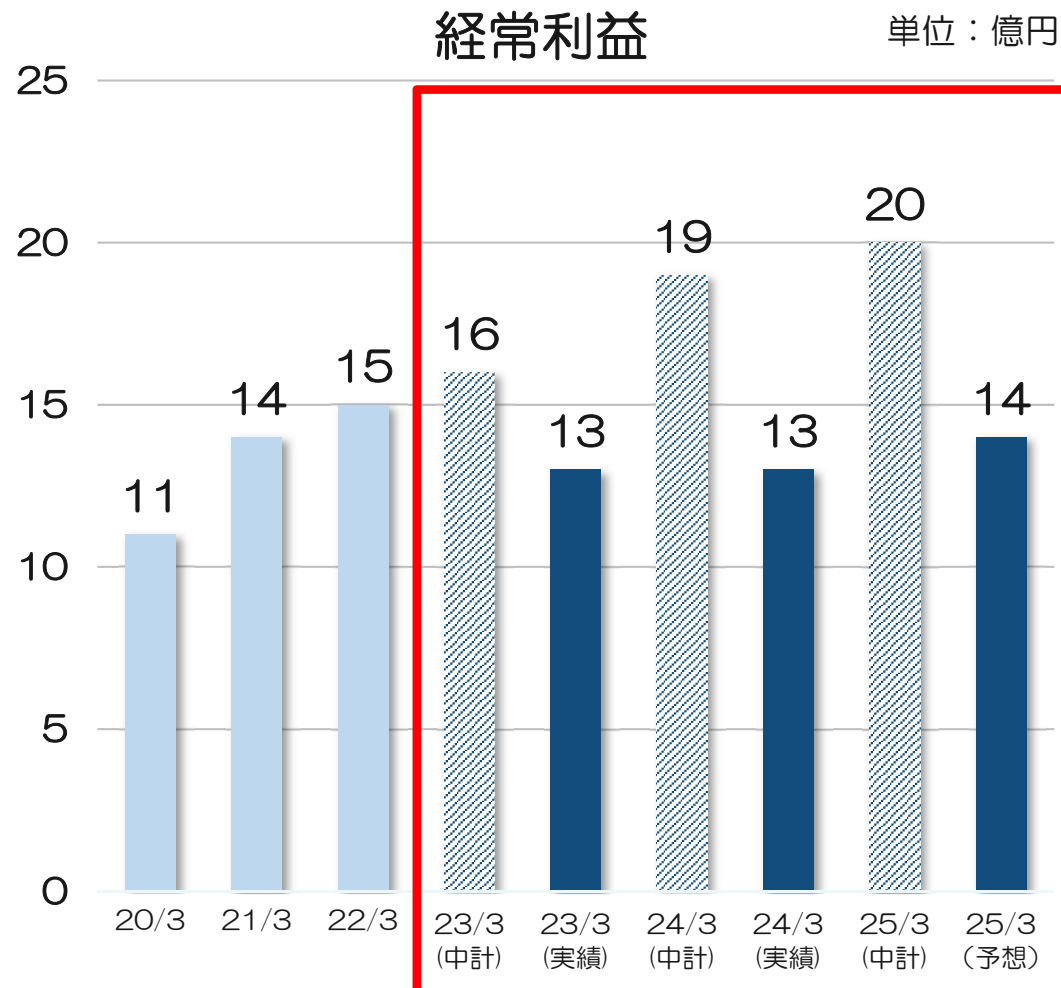
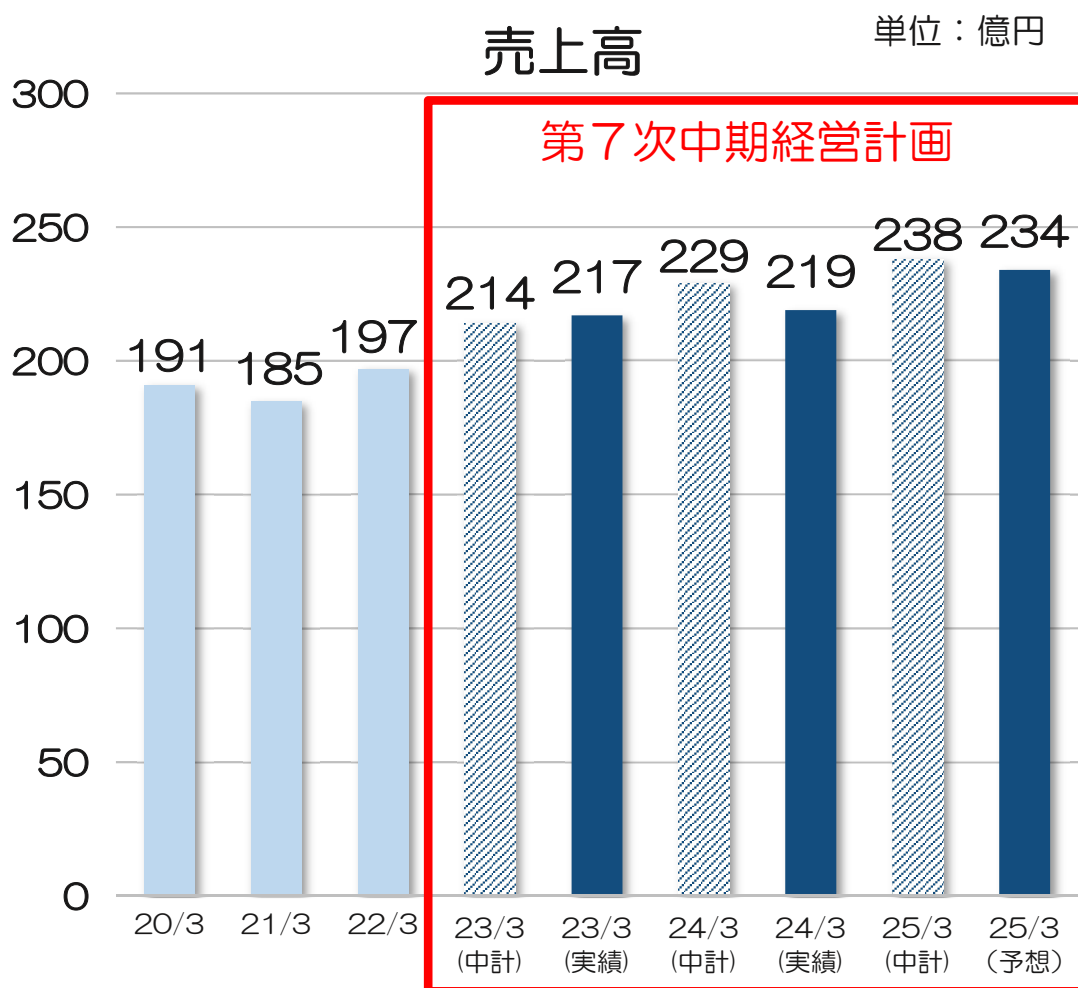
- 2022年11月公表の財務目標より売上高、経常利益を下方修正
- 設備投資については、概ね計画通り実行中

(単位：百万円)

	当初目標と修正目標の比較			
	当初目標 (’22年11月公表)	修正目標 (’24年5月公表)	増減額	増減率 (%)
売上高	23,800	23,450	▲350	▲1.5%
経常利益	2,000	1,400	▲600	▲30.0%
経常利益率	8.7%	6.0%	▲2.7%	-

□ 弊社を取り巻く環境の変化

- 中国経済の鈍化に伴い、ASEAN各国の輸出企業が低迷したことやASEAN域内での競争激化したことにより、海外事業の計画を見直しせざるを得ない状況となった
- 国内事業も、原燃料費および物流費の上昇に加え、円安の進行もあり事業環境が大きく変化



2025年3月期 業績予想（連結）

□引き続き厳しい環境が継続すると考えられるが、増収増益の予想

□イノベーション活動のスピードアップ、新規・拡販活動の推進、製造コスト削減等により、収益改善に努める

（単位：百万円）

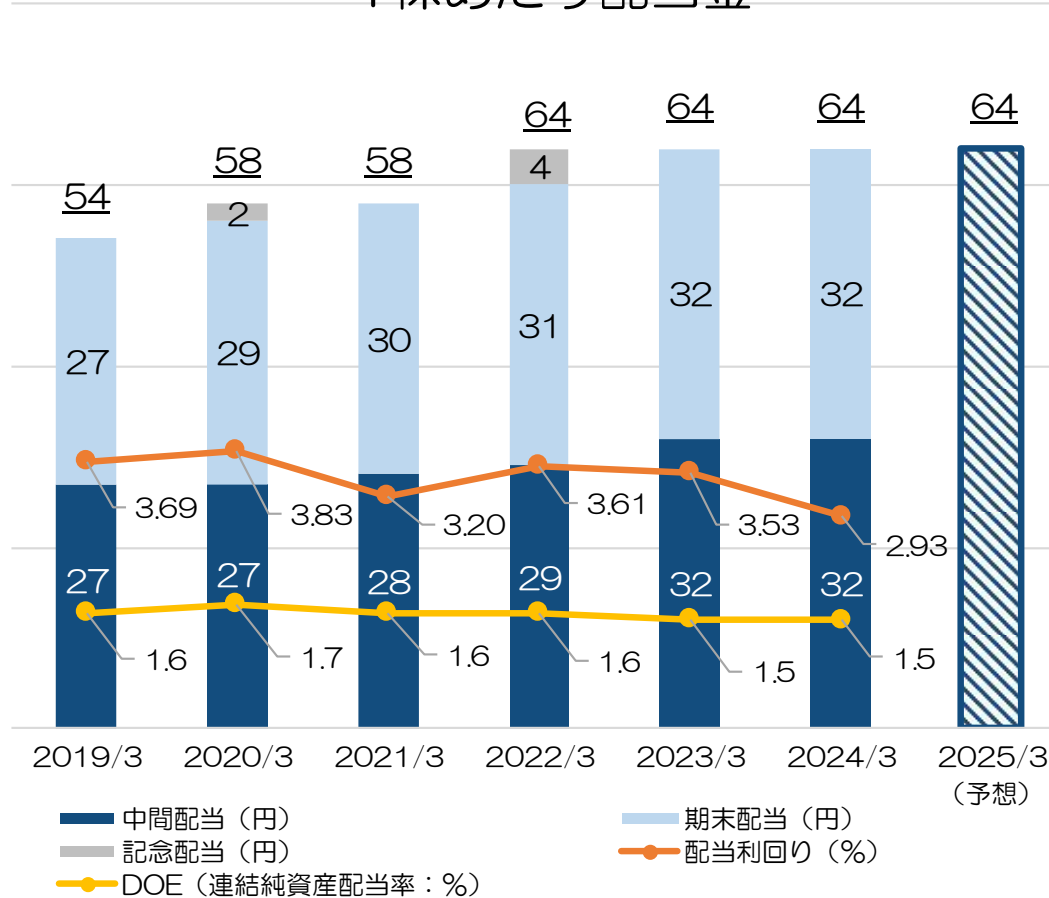
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減額	増減率（%）
売上高	21,964	23,450	+1,485	6.8
営業利益	1,086	1,170	+83	7.7
経常利益	1,347	1,400	+52	3.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,065	1,025	▲40	▲3.8

4. 株主還元

□ 配当方針

- 生産性の向上等による利益体質の強化を図りながら、将来の事業展開に備えた内部留保を確保しつつ、DOE1.5%以上を目安に、安定的に配当を実施する方針としている
- 1980年の上場以来、一度も減配、無配がなく安定した配当を継続

1株あたり配当金



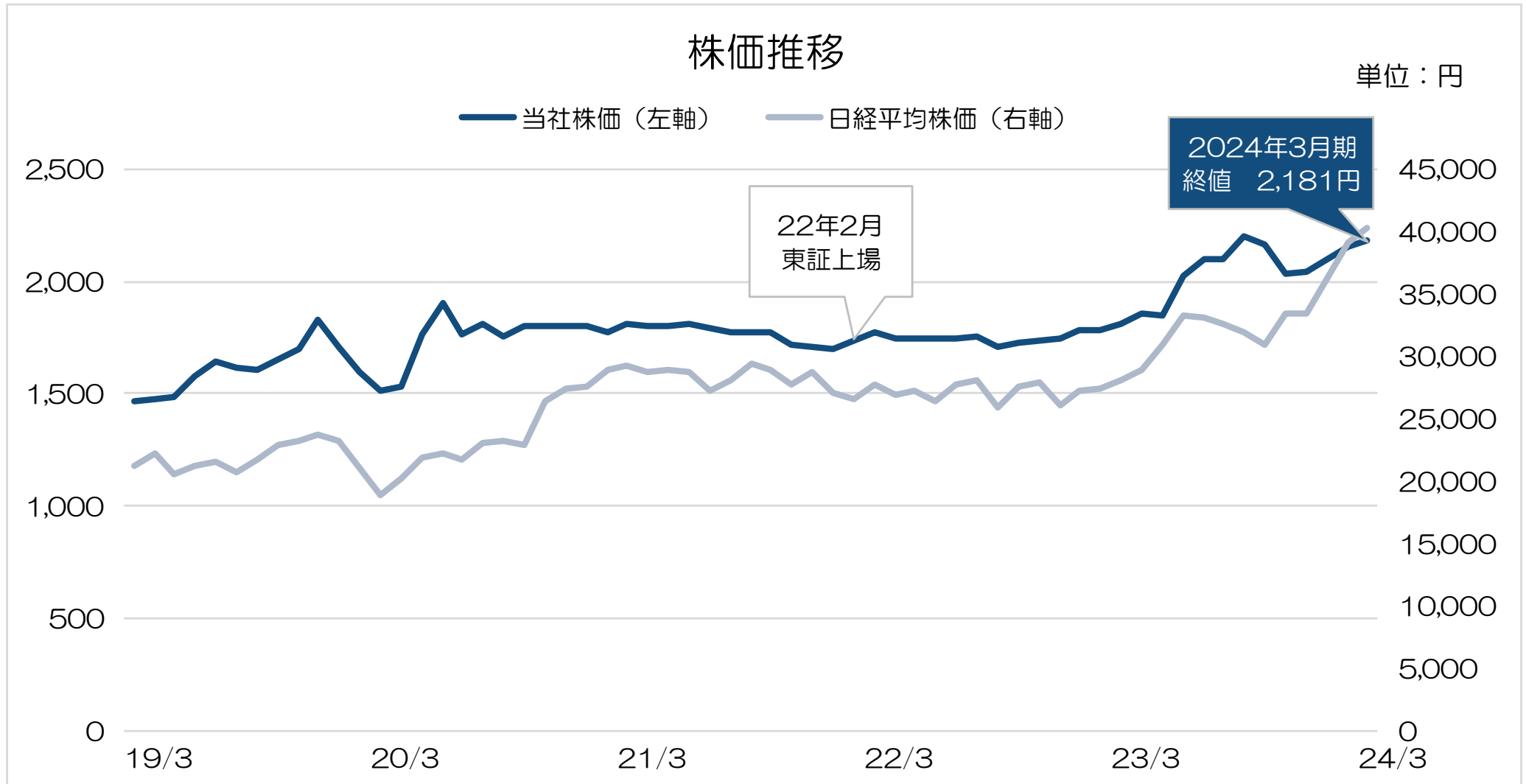
□ 株主優待制度

- 保有株式数に応じて、QUOカードを進呈

保有株式数	優待内容
100株以上1,000株未満	オリジナルQUOカード 1,000円分
1,000株以上	オリジナルQUOカード 3,000円分



5. 参考資料



□資源の有効活用



リサイクルによる資源の有効活用、ゴミの削減を目指し、地域や近隣の企業様と連携してオフィス古紙・機密古紙の回収を実施。

また、お客様のご協力のもと、鶏卵パックの回収も行っており、回収された古紙・パックはパルプモウルトの原料として再利用され、限りある資源の有効活用に努めている。



□リサイクル学習会の実施

地域の子どもたちにリサイクルの仕組みを知ってもらうために移動式リサイクル工場（アルエコ）を活用して、パルプモウルトの啓蒙活動を実施。

北九州市とも連携し各種環境イベント等にも参加しており、今後も継続して年2回以上の開催を目標として活動していく。

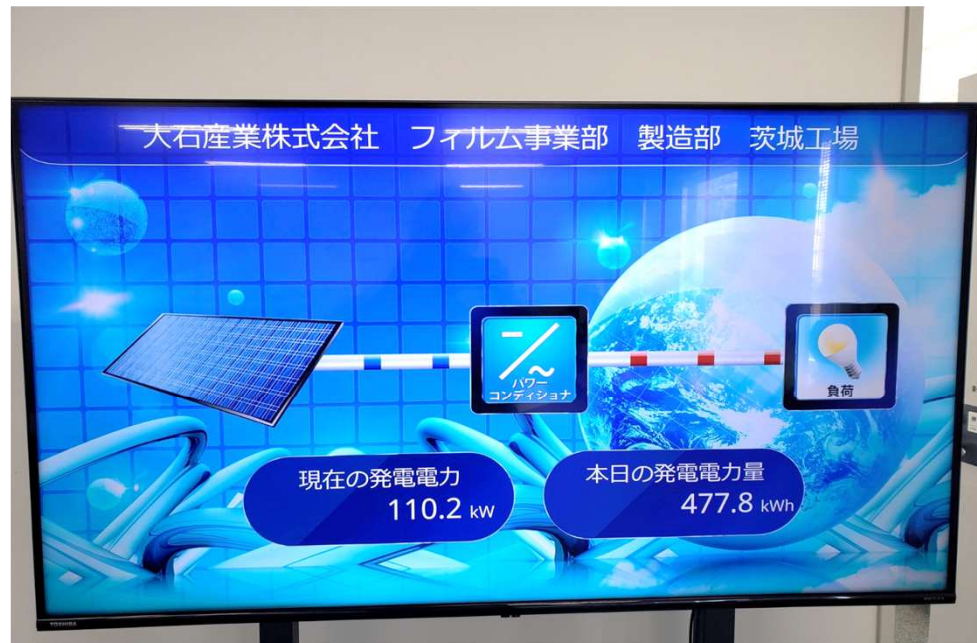


再生可能エネルギーの利用促進



温暖化ガス排出削減のための対策として、太陽光発電の導入推進、再生可能エネルギー比率の高い電力への切り替え、他製造現場を中心とした省エネ活動等を実行。

前期は新たにパルプモウルド茨城工場、フィルム茨城工場に太陽光発電を導入。



フィルム茨城工場 太陽光発電モニター



パルプモウルド茨城工場 太陽光発電パネル

□ 各種設備投資を実施

前期は第7次中期経営計画に基づき、多層キャストフィルム用製造設備や完成後の製商品に印刷が可能なアフター印刷機をはじめ、積極的な設備投資を実行。

これにより、高付加価値品の製造が可能となっただけでなく、製品のラインナップが大きく広がった。

今期も各事業にて複数の設備投資を計画。



□ 「まつり八幡東2023」にアルエコ※出展

シ アウトレット北九州にて開催された「まつり八幡東2023」に当社のパルプモールド移動式リサイクル工場「アルエコ」を出展。今後も積極的に当社の魅力を発信していく。

※アルエコ…移動式リサイクル工場



□ IR活動の活性化

オンラインでのIRイベントに始まり、水戸市、仙台市での一般投資家向け対面説明会や初の第2四半期決算説明会等を開催。今後も、当社について広く皆様に知っていただけるよう活発なIR活動を継続する。



大石産業株式会社

OHISHI SANGYO CO., LTD.

お問い合わせ先：経営企画室 IR担当

本資料の将来に関わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、現状または将来のリスクや不確実な要素が含まれています。

また、実際の業績は経済情勢の変化、法的規制の変化、自然災害等により変動する可能性があります。